



一般社団法人 USHA JAPAN



ニュースレター Vol.1 (2024 年度活動報告)

一般社団法人 USHA JAPAN

〒 570-0083

大阪府守口市京坂本通 1 丁目 4-8 (ディープスリーカレー内)

TEL : 06-6997-0655

E-Mail : ushajapan@gmail.com



USHA JAPAN

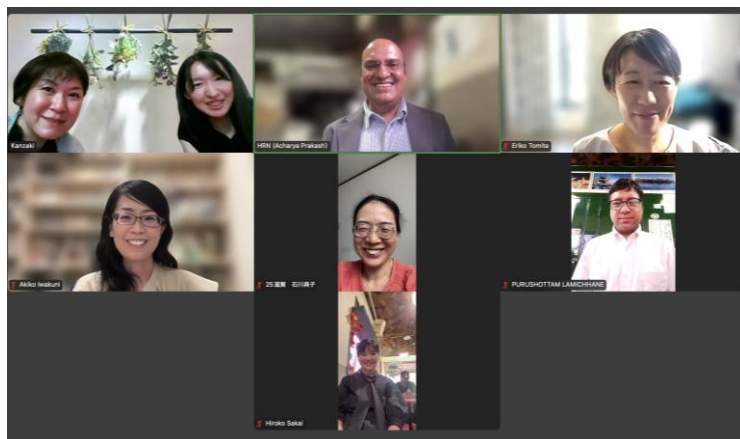
法人格を取得しました！

2025 年 3 月 10 日に法人格を取得し、一般社団法人 USHA JAPAN になりました。

新体制で活動が始まって以来、目指していた法人格を取得しました。2025 年度より団体名を改め、「一般社団法人 USHA JAPAN」としての活動が始まります。

2024 年度末より新たな活動に着手しておりますので、今後の活動報告を楽しみにお待ちください。

ホームページもリニューアルし、活動を発信して参りますので、チェックしてみてくださいね！



USHA JAPAN のメンバー

酒井ひろ子会長のご挨拶

私たちは、今年、活動してまいりました NGO としての歩みの一つの節目とし、一般社団法人 USHA JAPAN として新たなスタートを切りました。この法人化により、これまで以上に持続可能で組織的な活動基盤を築き、さらに多くの人々への支援を広げていく準備が整いました。

本年度は、ネパールにおける女性の栄養改善に関する研究プロジェクト国際共同研究強化（B）そして特定技能外国人（介護分野）の人材育成・継続支援プロジェクトを通じて、多くの新たなつながりと小さな成果を生み出すことができました。これらの活動の中で、現地の皆様の笑顔そして喜びが、私たちの原動力となっていることを改めて実感しております。また、この一年で私たちの活動には確かな基盤が築かれ、着実な発展を遂げようとしています。これは一重に、志をともにする仲間一人ひとりの「熱い想い」と「継続の力」によるものです。私たちはこれからも、「女性と子どもが自らの人生を選ぶ力＝自己決定力」を大切にしながら、次世代に希望をつなぐ支援を続けてまいります。自らの意思で行動する私たち自身の姿勢こそが、その支援の質を決めると信じております。どうか、これからも皆さまとともに歩み、共に支え合い、未来を切り開いていくことができますように。どんなに小さな灯でも、消さずに灯し続けることが希望になります。私たちの情熱が、世界の片隅で誰かの力になる日を信じて、これからも歩みを止めず、前へ進んでまいります。今後とも、変わらぬご支援とご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024 年度の活動報告

国内活動

ネパールフェスティバルへの参加

2024 年 7 月 27 日（土）、大阪の湊町リバープレイスで「NEPAL FESTIVAL 2024 in OSAKA」が開催されました。ネパールの音楽やダンスが披露され、ネパール料理などの出店もあり、多くの在日ネパール人が来場していました。USHA JAPAN の Lamichane 氏が総合司会を担当し、当日は、気温が 35 度を超える猛暑日となりましたが、テンポの良い MC に会場は大いに盛り上がっていました。



総合 MC の amichane 氏



USHA JAPAN のブース



この日のためにお揃いの T シャツを作りました！

現地の研究活動

「変えられなかった健康から、“変える私”へネパールの少女に、自分を選ぶ力を。」

ネパールの思春期女性は、栄養不良や貧血、過栄養といった健康課題を抱えながらも、文化・宗教・ジェンダー規範により自身の身体や健康行動について主体的に語る機会を持てずにいます。私たちは、計画的行動理論（TPB）に基づく教育介入とティーチバック法を用い、彼女たちが自らの身体を理解し、言語化し、行動を選択する力（Idicide）を育む支援とその成果の実証に取り組んでいます。本研究は、健康アウトカムの改善のみならず、意思決定力の獲得という行動科学的アプローチを通じて、文化や慣習の枠を越えた“自らを選ぶ力”を可視化・定量化する試みです。（国際共同研究強化 B）



アンナプルナ行政村（現在調査地域）

Nepal Health Research Council (NHRC)

12th National Summit of Health and Population Scientists in Nepal, 2024 本プロジェクト発表の様子です。本研究グループは、2024 年 4 月にカトマンズにて開催された第 12 回ネパール健康・人口科学サミット（Nepal Health Research Council 主催）において、思春期女性の意思決定力と健康行動の変容を目指す教育的介入プログラムに関する研究成果を口頭発表いたしました。発表は、ボカラ大学の若手研究者（関西医科大学との国際連携協定に基づき育成支援中）により行われ、思春期の貧血・栄養不良・月経管理などを対象とした計画的行動理論（TPB）とティーチバック法を統合した介入の有効性について報告されました。本サミットでは、感染症、公衆衛生、母子保健、非感染性疾患など幅広い領域の発表がなされましたが、行動科学的アプローチに焦点を当てた研究発表は極めて少なく、本研究のように「思春期の自己認識や意思決定に着目し、行動変容を科学的に定量評価する研究」は高い関心を集め、NPO や行政機関関係者、国際 NGO 研究者らから多くの質疑・意見が寄せられました。また本サミットにおいて、新生児の臍帯感染予防研究の第一人者である Dr. Leera（ネパール国立公衆衛生研究所）との出会いがあり、今後の共同研究への展開が期待されています。特に、乳幼児期と妊娠前の思春期をつなぐライフコース視点の実証研究として、妊娠前からの栄養・自己管理能力の育成に焦点を当てた支援介入の共同構築を計画しています。



本研究が実施されているアンナプルナ行政村は、ヒマラヤ山脈の麓に位置する非常に険しい山岳・農村地域であり、多くの集落が車道の届かない高地に点在しています。調査機材や教材は、徒歩やロバによって輸送され、雨季には激しい雨と地滑りに見舞われることも少なくありません。このような厳しい環境下でも、研究チームおよび地域の教師・保健スタッフとの連携により、教育的支援とデータ収集は地道に継続されており、「どのような環境でも少女たちに学びと選択の機会を届ける」という本研究の理念が具現化されています。

2025 年度の活動予定

今年度は、ネパール現地で継続されているプライマリ・ヘルス活動とともに、新たな国内活動としては HRN GROUP と MOU を締結し、「特定技能外国人（介護分野）支援プロジェクト」が始まりました。来日したネパール人の日本での異文化適応を促しながら、就業先で充実した仕事と豊かな学びが得られるよう支援を展開してまいります。また、在日ネパール人の支援として健康に関する相談会、研修会なども開催していく予定です。

特定技能外国人（介護分野）の人材育成・継続支援プロジェクト



日本の介護現場は深刻な人材不足に直面する中、多くの外国人が希望を抱いて来日します。しかしその多くは、高額な手数料や不十分な教育支援により「借金型来日」となり、定着困難や早期離職を招いてきました。

私たち USHA JAPAN は、こうした構造に抗い、ネパールの教育機関と正式に提携し、人材紹介業者を一切通さず、志のある優秀な人材を日本の介護施設へ直接紹介する新しいモデルを構築しました。内定後の 3 ヶ月には、HRN GROUP による徹底した日本語・介護・異文化・生活支援研修を現地で実施し、来日後も登録支援機関と連携して生活の自立と長期定着を支援します。

これは、制度の隙間に置き去りにされてきた若者たちに「選ばれる側」ではなく、「自ら選ぶ」力を取り戻す取り組みです。介護現場に希望と信頼を、そして多文化共生社会の実現に向けた一歩を、私たちはここから始めています。



会員を募集しています。

USHA JAPAN では、会員を募集しています！

「ネパール人を応援したい」、「ネパール現地で支援に参加してみたい」、「日本で頑張っているネパール人を支援したい」、「開発教育に興味がある」、「ネパールで保健医療活動してみたい」、「ネパールに興味がある」などなど・・・人によって理由は様々です。年齢や性別、国籍は問いません。

支援に参加することでネパールと日本双方の発展につながる橋を一緒に架けてみませんか？

会員の皆様にお知らせ

ご住所、電話番号、ご所属など、登録内容が変更した場合は、事務局までご連絡をお願いします。

あとがき

新体制となって USHA JAPAN の活動も 3 年目に入り、新たな活動の展開に慌ただしく日々が過ぎていきます。今夏には、当法人が支援する第 1 号のネパール人が特定技能外国人として来日する予定です。初めての経験に試行錯誤を重ね、楽しみながら成長できるようメンバー一同頑張っています！

(事務局：神崎)